

# 70年前の東京大空襲を研修

## 体験に耳を傾け 慰霊堂で平和祈る

WCRP青年部会

世界宗教者平和会議(WCRP)青年部会(石川清哲幹事長)は3月29日、東京・下町の立正佼成会墨田教会で青年公開セミナーを開催。約60人が70年前の東京大空襲の惨劇体験者から当時の



70年前の空襲体験を話す江角恵子さん

の状況と平和の尊さを学んだ。午後には関東大震災と大空襲犠牲者の遺骨を安置する近くの東京都慰霊堂に移動し祈りの集いが催された。

講師の江角恵子さんは国民小学校2年の時に空襲に遭遇。現在は、江東区北砂の「東京大空襲・戦災資料センター」で語り部として活動している。当時は深川区猿江町に住み、生家は鍛冶屋だった。3月10日未明から300機ものB29が下町一帯を襲った。「外を見ると西から東に向かってリ



東京都慰霊堂で祈りを捧げる参加者

襲により10万5千人が犠牲となり、慰霊堂に遺骨が眠っている。戦後70年、戦争と平和を考える上で一番相応しい場所」と会場の意義を説明しセミナーに入った。

焼夷弾で家々は炎に包まれ、火の粉が飛んできた。防災頭巾に降りかかってくる火の粉を母が振り払った。「風よけになるからとカスタンクの裏側に避難した」と江角さんは九死に一生の体験を話した。

さらに戦時下の暮らしに言及しながら、「平和を守ってこられた70年の重

さを大事にして欲しい」「戦争は争う西国とも苦しむ人がたくさんでる」と述べ、若い世代の平和活動を期待した。

出席者からの意見や質問に対して江角さんは「日常のニュースや生活の動きをキャッチするようにはしていくこと」と普段から平和への関心を持つよう促した。

4グループに分かれての討論とすいとん昼食を経て、午後から東京都慰霊堂に移動。墨田宗教者・信徒平和会主催の祈りの集いに参加した。特設祭壇前で立正佼成会墨田教会、青年部会代表(本門法華宗)、日本ムスリム協会有志、神社界など各宗教ごとに大空襲70年の祈りを捧げた。